

「しろい春」比喩言い換え解釈

詩はたくさんの中の言葉が省略されている。その言葉を補つたり、難解な言葉をわかりやすい言葉に替えたり、比喩で表されている語を日常使う言葉に替えたりしてして、「しろい春」の解釈文を作成する。

「わかりやすさ」の対象として、「中学校1年生がわかる」表現を目指す。

『フォーマット』各行（1～15）ごとに改行を入れて記す。

行頭に行番号を記す。題名と作者名を一行目に記す。その他はいつもと同じ。

『視点』

「鏡」
「犬」
「白いあなた」
「裏側」
「あなたにさわる」
「ここ」
「衿足をそる」
……など

それぞれ何を表現しているのか？

月	日	年	組	番
15 14	5 4 3 2 1	しろい春	吉原幸子	

『アドバイス』

「しろい春」の詩全体で何を描いているのかを想像妄想し、全体的に統一感を持たせるとよい課題が作れる。

いつもの通り「オリジナリティ」を追及すること。

全ての言葉を言い換える気持ちをもつて取り組んでほしいが、どうにも言い換えられないものはそのまま使つてもよい。